

かみくげ恐竜の里新聞

平成二〇年一月二五日

発行：上久下恐竜の里づくり協議会

第7号

上久下
地域づくり
センター
0795 78 0001

農水省ふるさと支援事業

五カ年計画案まとまる

恐竜の里づくり協議会、ふるさと支援事業グループは八月の交付決定通知を受けたことから交付期間の五ヶ年（総額一一〇〇万円）のふるさとづくり計画書をまとめました。

計画書によると五年先の大きな目標を「交流・対流のふるさとづくりによる地域の活性化と自立」と位置づけし、具体的な取り組み計画を策定しました。主なテーマには

◆（景観・環境）篠山川に清流を取り戻す水質保全活動や河川の清掃活動、ハイキングコースに桜、紅葉の植樹による景観保全と美化活動

◆（観光・教育）地域内資源の精査と育成による観光人口の増加、自然資源・人文資源の保全による教育的交流人口の増加

◆（伝統文化・芸能）青田の神楽舞、桧皮葺き等の文化、芸能の保存・継承
◆（地域特産物）かみくげブランドの地域特産物の発掘と特産加工品の研究・開発

早急の取り組みとしては

◆上久下水力発電所跡は今年度内に

調査・測量を済ませ、二一年度には原形を保ちながら改装に入ります。一階部分には発電所稼働時の面影を残し、二階部分は展示施設とすることが里づくり協議会の統一した見解ですが、さらに詳細は今後の検討事案

◆発見現場駐車場（写真）に来訪者むけの物品販売センターや休憩所を作る

◆駐車場周辺の竹やぶの清掃活動を通じ、特異の河川の景観・美化の保全を図る

◆観光スポットに観光案内板を設置し、誰にもやさしい解説書で観光人口流入を図る

これらの計画案は十一月一八日の自治協議会理事会で周知され、それぞれの団体、グループ、自治会員との協働で実施し、あたらしい「かみくげの里」づくりを目指すことが確認されました。みなさんのご理解とあたたかいご支援をよろしくお願いします。



クイズラリーと刈田ウォーク 同日ダブルイベントに二〇〇人

丹波電化石発見現場を訪ねる二つのイベントが十一月一日に同時に開催されました。

一つは兵庫県、丹波市、JR西日本らで構成する鉄道フォーラム・クイズラリー実行委員会が行うイベントで、市内外から一〇〇人近い参加者や関係者が下滝駅に集結しました。参加者は電車を利用して下滝駅から黒井駅までの各駅を乗り継ぎながら秋の丹波路各所を巡るコースで、下滝駅からは、広田のつり橋を見て、化石発見現場までのルートを一時間半かけて散策の後、次の目的地、柏原に向かいました。普段は静かな駅前やプラットホームは一時活気にあふれ、まるで厄除祭の柏原駅のような、と近隣の住民は目を丸めていました（写真上）。もう一方のイベントは昨年に続く「刈田ウォーク」、電車や車での一〇〇人の家族づれが駅前と発見現場に設けた受付を済ませて新設のレンタサイクル（写真下）や徒歩で自由に散策をしました。二〇〇人の来訪者を迎える当日朝は早くから下滝駅前花づくりグループとJR社員合わせて三〇人で駅舎と駅前広場の清掃作業を行ない、地元の「おもてなし」の心でお迎えしました。出演者のみなさん、大変お疲れ様でした。



地区文化祭開催される 上久下地域づくりセンター

十一月三日、秋晴れの下で恒例の上久下地区文化祭が地域づくりセンターで開催されました。

今回で三十四回を数える文化祭には地区内より多くの家族づれが参加し、茶道同好会による薄茶のサービスを受けたり、華道同好会による生け花展示や、上久下の児童や一般住民による絵画、盆栽、写真展、手芸品、健康野菜など数多くの出展品に見入っていました。屋外広場に設置したテントでは、はたち郷クラブによるポン菓子や野菜グループの新鮮野菜市、フリーマーケットなどにも人だかりができ、阿草ボランティアのバザーも早々に売り切れる盛況ぶりをみせていました。

例年の特設舞台での歌やおどりの演目に加え、篠山より特別出演のKBアンサンブルの奏でる地域の歌やなつかしのメロディー、〇曲あまりに参加者は聞き入っていました。山南町内で唯一となった当地文化祭行事は今後も形を変え、内容を変えながらも継続してゆくことが大事と実行委員の一人は感想を述べていました。



われらが里の元気人 見つけた！ 3

村上こみつさん
(九四歳・篠場)



村上こみつさんは大正三年一〇月二
七日生まれで九四歳になられました。
今でも元気に野菜づくりに精を出し、
炊事から洗濯まで家事一切を一人でさ
れていきます。目や耳も不自由なく、新聞
には毎日目を通され、丹波新聞は隅から
隅まで読まれるそうです。子供さんは五
人おられ、多くは遠方に住んでおられま
すが、
「毎年帰って来てくれるし、頻繁に電
話で様子を聞いてくれますよ。」
と嬉しそうに語っておられました。平
成二年にご主人を亡くされ、以後一人暮

らしを続けておられます。

隣に住居をかまえる息子の正昭さん
は母親の元気の秘訣を「息子に迷惑をか
けたくないとの気持ちと自分で何でも
やらないといけないとの気力、それに一
人暮らしで余計な気遣いをしなくても
いいから」と分析されていましたが、ご
本人は「規則正しい生活をする事」が
元気でいられることですかねと振り返
られていました。

村上さんを訪ねたときは暖かい秋の
日差しの下でつるし柿をつくっておら
れました。

最初は突然の取材訪問に躊躇されて
いましたが、快く引き受けていただきま
してありがとうございました。寒い季節
を迎えますが元気で過ごして欲しいも
のです。



一二月の行事

- ★ 一二月二日 恐竜化石三次発掘
工事開始
- ★ 一二月一三日 里づくり協議会
午後七時三〇分

クラブ活動の紹介 日本舞踊 祥葉会

現在メンバーは五名で、月二回地域つ
くりセンターで練習されています。平成
一七年より西崎会の西崎祥先生（柏原
町）のもとで活動をスタートし、長唄や
流行歌の曲に合わせておどりを練習さ
れています。一〇曲位はいつでも披露で
き、地区文化祭や、老人会総会、老人ホ
ームなどで披露したり、年一回の西崎会
公演にも参加されています。

メンバーの一人に日本舞踊について
印象を訪ねると「着物を着ると気分が落
ち着き、身が引き締まる。おどりが始め
ばかなりの運動量にもなり、健康にもよ
い。是非みなさんにもお勧めしたい」と
言われていました。また、「お声がかか
ればどこにでもボランティアで出かけ
ます。多くの人に見て、楽しんでもらっ
ことが最大の夢と喜びです」とも付け加
えておられました。



「かみくげの里ガイドブック」完成 恐竜の里づくり協議会が製作



上久下への見学者や一般訪問者は、恐
竜化石発見以来、これまでに六万人にの
ぼります。

里づくり協議会では、このたび訪問者
に地域の観光資源を広く紹介する小冊
子を一〇〇〇部作成して化石発見現場
や地域内商店、郵便局、地域づくりセン
ターなどに配置しました。地区内に存在
するハ〇箇所の人文・自然資源を細かく
調査し、三〇箇所にしぼった推薦コース
を選定したもので来訪者に地域をより
よく理解してもらうことを目指してい
ます。また、地域内全戸にも無料配布し、
魅力ある地域資源を再確認し、来訪者へ
のおもてなしに役立てたいと考えてい
ます。紅葉の時期に発掘現場を訪ねる家
族連れは週末には一五〇人を超すこと
もあり、きつと喜んでもらえるのではと
期待しています。